

住居内環境に関する研究 (第3報)

床材の種類とゴミ量

生協・科学情報センター

一瀬直美

目的 S市集合住宅9世帯についての1年間の調査の結果、掃除機による床面からの採取ゴミ量は、世帯間、そして各部屋間で大きくばらついていることがわかった。このばらつきの原因について、今回は主に、住まい方や床材の種類の方から調査した結果を報告する。

方法 S市集合住宅9世帯(左右反転はあるが、すべて3DKの同じ間取り)の協力を得た。各世帯の主婦に、床材の種類、使用年数、通常の掃除機のかけ方等のアンケート調査を行い、住まい方の概要を調べた。一方、掃除機日立CV-8605(ゴミパック式)を用い、各室ごとにゴミを採取した。採取したゴミから、ピン・ボタン等の重い物は除き、比較的均質なゴミとし、これを計測した。なお、床面あたりの掃除機使用時間は一定に設定した。後に、調査世帯のカーペット類は全てもらい受け、他の床材の場合は現場で10~100回、設定時間掃除機をかき、床材に貯め込まれていたゴミ量を推測した。

結果 1回に採取されるゴミ量はあたりにすると、20%から1%とばらつきは極めて大きい。推測貯め込み量は床材の種類によって大きく異なり、リッション・フロアの場合は貯め込みが少なく、畳や板間も貯め込み量が比較的少ない傾向にあった。一方、繊維製カーペットの場合は、個々のカーペットによって大きく異っており、非常にばらついている。このばらつきは、カーペットの使用年数に関係しており、使用年数の長い程、ゴミを多く貯め込んでいいると考えられた。通常の掃除の仕方は世帯間に差はなれと思われ、床材の種類に見あった掃除の仕方と考えるとゆく必要がありそうだ。